明治四十二年三月二十一日發行（毎月一回二十日發行）本號に限り二十一日發行

March 21th 1909.

Report of the Sericultural Association of Japan.

No. 204

大日本蠶絲會報

第貳百四號

▲本號目次▼

●日本婦人の衣服　農學士　本多岩次郎
●具體的種類改良法　農學博士　外山龜太郎
●蠶種を貯藏する場所に就て　農學士　石渡繁胤
●刻下焦眉の急務は實に桑園の改良に在り　練木喜三
●伊國震災地生絲の廢滅と生絲市場の影響　蚕糸檢査所技師　今西直次郎
●桑の背尺蠖と角尺蠖　農學士　明石弘
●蠶絲業家奮闘の最好期　吉池慶正
●問答＝再出卵其他の件＝蠶蛾強弱の件＝石油の臭氣に關する件＝病毒空氣傳染の件＝上蔟終了後の病蠶の件＝母蛾病毒の件＝經濟的乾繭器の件＝絲綿細太の件
●會務彙報＝明治四十一年度經費決算
●蠶桑講習＝蠶業組合の大計畫＝好種なり本邦の玉絲＝桑苗の共同購入＝蠶兒の病毒檢査＝立枯桑の利用＝鐵砲絲征伐＝礦氷蛆の産繭絲は急速傷ひか＝工女五千人＝特價發賣の徽回

TOKYO.
The Association;
No. 18 Nishikicho Sanchome, Kanda, Japan.

明治二十七年八月二十五日第三種郵便物認可

大日本蠶絲會の施設及事業の一般

●本會の目的
●本會の性質
●本會の起源
●本會の總裁
●本會の會員
●會員の待遇
●地方の旋設
●婦人と蠶業
●學藝の叢
●通信の機關
●海外の聯絡
●功績の表彰
●職工の慰諭
●販路の紹介
●形情の疏通
●號通の媒介
●優賞の特典
●智識の普及
●共植と利用
●發行の會報
●講義錄新刊

本會は本邦の國土長濟に最も適應する蠶絲業の改善發達を圖り國力の增殖を期するをもつて目的とす

本會は法律の規定に從ひ主務官廳の許可を得たる社團法人にして此種團體の基礎開なる比類稀なり

本會は明治二十五年の創設にして實に十有八年の星霜を閲し爾月の推移と共に歴史を積むつゝあり

本會は　伏見宮殿下を總裁主殿下に奉戴するの榮誉を荷し之を仰ぎ親しく統率を仰ぎ奉るに至れり

本會に對し通常は一時壹拾錢、特別は一時壹拾錢又は四年間壹圓宛の會費を納めば何人たりとも會員たるの資格を得ふ

本會會員及講義錄の割引なし本邊會の會合に相致し盛宴待遇なす特別會員は從に役員の被選權あり

本會會員の多き地方に支會を置き少き地方に地方委員部を設け地方長官に支會長又は委員長を囑托す

本會は蠶業の改良に婦人の力著大なるを認め各地に婦人部を設置し蠶業の移植と勤儉の觀念涵養に勢む

本會は蠶絲業上に於ける諸般の調査と會員の質疑に解答するの外なを執る爲三千有餘名の學藝委員を置く

本會は蠶絲業上の出郵事務を簡易の精確に報道する爲の國及び內國各地に九十有餘名の通信委員を置く

本會は蠶絲業上に於ける世界共通の公益を增進せん爲め伊國の新聞雜誌に紙面を借り五に紙編を爲す

本會は蠶絲業に貢獻し功績顯著なる者に敬意を表し賞讃し名譽ある賞狀を與へる外に內閣の表彰を仰ぐ

本會は蠶絲業に從事する勞働者の二十年以上忠實に精勤せる者に對し勤續賞狀を與へる爲三百拾七名

本會は蠶業に對して多々絲々生産を增加する蠶絲の販路を擴張せんが爲に海外に紹介することを圖る

本會は蠶絲業上に於ける世界施設其他の得失を調査し産業者の間に介在して事情の疏通を圖る

本會は時宜に應じて蠶絲業上に於ける品評會を開設し出品の優劣を批判し以て相互競進の媒介を爲す

本會は內國女會に開設せる品評會に對して二等賞に選まれたるものには　御下賜下より賞品を與へる

本會は蠶絲業の調査技術者の組合集談會に開設せる蠶業及蠶評をなし新業智識の發表を圖る

本會は國に對し蠶絲業の共植して利源を開發し清國發製絲の調査をなし之が利用の途を開せんとす

本會の會報は絲の紹介を重ねること二百　天皇の光榮に浴し本邦に信用あるのみならず歐米の蠶業界に榮價を博す

本會は女子蠶業教育の一助に資せんが爲蠶絲業一流の學者に執筆を請ひ女子蠶業講義錄を新刊せんとす

所務事會絲蠶本日大

君直正平松樹男頭會絲蠶本日大

Monsieur le Baron
M. Matsudaira, Directeur
Général de notre
Association.

Bureau de l'Association séricicole du Japon.

第四回總會に就て

雪解の雲は霞と棚引きて若草野に萠え四方の景色は眺むる限り長閑けくなりぬ此の好機に當り本會は過去を回想して將來を計り且つ評議員の改選を行ふべく四月四日天下の一品たる後樂園砲兵工廠内に於て第四回總會を開かんとす時や花の期節にして地は豪雅を極めたる處鏡なす水も綠の色を添へ氣晴れては風新柳の髮を梳り淺れては波舊苔の鬚を洗ふてふ仙境に臨み

總裁殿下台臨の下に親しく全國蠶絲業界の同志と會して其活動を議するは現下の急務にして面も空前の事に屬す回顧すれば蠶絲業界發展の跡歴然たるものありと雖も尙現時より將來を忖度すれば發憤劃策一層勉めて怠らざるべきも一以て意を安ずるに足るものなきの秋なり……希くは憂國の志士……天下の仁人諸君……忙中の間を割き陸續參會せられんことを

臨時增刊大日本蠶絲會報　第貳百四號

日本婦人の衣服

學藝委員
農學士　本多岩次郎

男子の着物よりも女子の着物の種類が多い

凡そ婦人の着物と申しまするものは、東洋にても西洋にても男子の着物よりは種類の多きものでありまして、日本にありましても矢張り數多くありますが、其衣服が幾ばくの程の生絲を用ひて幾何の分量を要し、其生絲は幾何の桑園より收穫しまする幾何の桑葉を以て飼育しましたる幾何の蠶が結びたる繭より出來ますかは之を知るものが甚だ少いのであります、夫れ故予は今爰に春夏秋冬四季に於て着用する婦人の衣服類に就き、之を一々解剖致しまして本會々員諸君の參考に供しようと思ひます。

普通の衣類一着にどの位の蠶と繭と生絲とを要するか

前にも申しました如く衣服の種類は夥多ありますけれども爰には單に四季に於て他家を訪問する場合の普通の衣服類一切に就きて記載しようと思ひます、今各種の衣服を仕立つるに要する織物の重量を調査し、練減、織減、仕上減等の概略を見積りて生絲量を算出し、更に繭量、蛹數等に及ぼしますれば概ね左の通りであります。

備考　絹布は種類の異なるにより其原料なる生絲の品質も異り之に要する繭にも優劣の差異があります爲て蠶數にも自ら多少の差がありますけれ共爰には大體な知るに價ぜん爲め凡て普通の場合に於ける計算を示しました

春　時　衣

種		重量	同上に對する生絲量	同上に對する繭量	同上に對する蛹數
袷	絹	二反	三三〇匁	四三〇匁	二〇四〇匁
	織入	二反	一〇〇匁	一四五匁	四〇六〇
袷	紬	二反	一〇〇匁	一四五匁	四〇六〇
袷	眞綿	一反	一三〇匁	一六五匁	一六八〇
長襦袢	絹	一丈五尺	一三〇匁	一六五匁	四六二〇
袷	縮緬	一掛	七三〇匁	四〇匁	一一二〇
半襟	縮緬	一掛	九二五〇	九三一五	二五〇
帶	繻絞	二尺	三一五	三一五	八八二〇
帶上々	縮緬	三尺五寸	一八	二三	二三 六四四

帶止メ	絹絵	三	四	一一二	
帶	縮緬	三〇	四	一一六五	
帶	縮緬	六尺五寸	三〇	一六五	
計		九六八	三八	一一二九	四六二〇

夏衣

羽衣二枚重帽	二反	二〇〇	四〇	一一二	
長襦袢	絹縮緬	二	四〇	一一六五	
帶	絹縮緬	一	九	一一二	
牛蒡	絹縮緬	一掛	五・四	一一二	
帶	絹縮緬	三尺五寸	一八	一一二	
帶止メ	絹絵	三	四	一一二	
帶	縮緬	六尺五寸	三〇	一一二	
計		五六六四	七三二	一一〇六四	

秋衣

袷長襦袢	絹縮緬	二反	三三〇	一四五	
重襦袢	絹縮緬	二反	二一〇	一四五	
長襦袢	絹縮緬	一反	一三〇	一六五	
牛蒡	絹縮緬	一掛	三〇	四〇	
帶	絹縮緬	三尺五寸	一八	三一五	
帶上ヶ	絹縮緬	三尺五寸	三〇	三一五	
帶止メ	絹絵	三	四	三一五	
帶	縮緬	六尺五寸	三〇	三一五	
計		五六六四	七三二	一一〇六四	

冬衣

袷長襦袢	絹縮緬	二反	三三〇	一四五	
重襦袢	絹縮緬	二反	二一〇	一四五	
長襦袢	絹縮緬	一反	一三〇	一六五	
牛蒡	絹縮緬	一掛	三〇	四〇	
帶	絹縮緬	三尺五寸	一八	三一五	
帶上ヶ	絹縮緬	三尺五寸	三〇	三一五	
帶止メ	絹絵	三	四	三一五	
帶	縮緬	六尺五寸	三〇	三一五	
計		五六六四	七三二	一一〇六四	

長襦袢	絹縮緬	一反	一三〇	一六五	四六二〇
牛蒡	絹縮緬	一掛	三〇	四〇	一一二〇
帶	絹縮緬	一	七	九	二二〇
帶上ヶ	絹縮緬	三尺五寸	一八	三一五	八八二〇
帶止メ	絹絵	三	四	三一五	六四四
帶	縮緬	六尺五寸	三〇	三一五	一一二
計		一二四六	三八	一一〇六四	四四二〇

右表に就きて見ますれば四季に着用する婦人衣服類一揃に要しまする生絲量、織量及鑑の數は左の通りであります。

袷衣一揃	一反百二十九匁	一百二十二匁九合	三萬四千四百十二頭
夏衣一揃	七百三十二匁	七斗三升二合九合	二萬四千九百十六頭
秋衣一揃	一貫百六十九匁	一石一斗六升九合	三萬二千七百三頭
冬衣一揃	一貫四百八十九匁	一石五斗七升九合	四萬四千二百十二頭

婦人の着物一揃にゞの位の桑と土地とを要するか

夏衣一揃	百八十四貫三百五十匁	百〇九貫八百匁	
秋衣一揃	百七十五貫三百五十匁	二百三十六貫八百五十匁	
冬衣一揃	百七十五貫三百五十匁	二百三十六貫八百五十匁	

尚桑の正葉百五十貫を收穫しまするには凡そ三百坪即ち一反歩の桑園を要しますから、四季に於ける婦人服を揃へ又

尚蔭一合を收穫するに要します桑は正葉（葉柄の部）にて凡そ百五十貫でありますから、各季に於ける婦人衣服類一揃を造りまするには、實に左の如き桑葉が要ります。

具體的種類改良法

學藝委員
農學博士　外山龜太郎

新種桑は如何にして作るか

「生物は蟻細工の樣なものでどうでも編へることが出來る」とは學者が往々言ふ所であるけれども、どうすれば出來ると言ふことは明言しない、多くは出來たものを見て跡から拵へるに過ぎぬのであります。

五六年前より余は種類の改良と其必要とを唱へたが近年に至つて多少世上の注意をひくやうになつたは余の喜びに堪へぬ所であります。然るに中には種類改良は中々六ケ敷いもので、之中には種類改良は中々六ケ敷いもので、そう容易に出來るものではないと言ふて止けなす人もあります、尚し何人も種類改良の不必要を唱ふる勇氣のある人はないのである、余は米ガ貯て種類一定說を唱へたことはない、又容易に出來るものでないと言ふのは是等に對して一言御答へ致します、余は米ガ貯て種類一定說を唱へたことはない、又容易に出來るものでないと言ふのは意味か、又は余の言ふが如く出來ぬと言ふのか解らないけれども前既であれば餘り情容易に出來ぬから改良を止ろと言ふ言ふ意味か、又は余の言ふが如く出來ぬと言ふのか解らないけれども前既であれば餘り情

な次第で是までは何も大なる事は出來ないと思はれます、大事業に困難の伴ふは當り前で困難に遇れるようなら二十世紀の仕事は何も出來ない、又余の言ふが如く容易に出來ぬと

するには左の如き土地を要します。

袷衣	三百六十九坪	
夏衣	二百二十坪	
秋衣	三百五十一坪	
冬衣	四百七十四坪	

斯く段々と婦人の衣服類を細かに解剖して見ますれば之を造るに要する勞力と、資本とは實に容易のものではありませんが、又之を着たるを見は到底毛や木綿の織物にて製したる衣服を着たるのゝ比ひではなく、實に優美であります上類の天然の美を發揮することは恐らく絹に及ぶものはありません、去りながら其根源に遡りて考へますれば昨今の時候上に於ける衣服一揃を着用せらるゝ婦人は或は一反に一石二斗以如く又或は百八十四貫目以上の桑葉を荷ふて居るが如き有樣であります、更に之を桑園の手入、蠶兒の飼育、生絲の製造、織物の製織仕上等に要しまする勞力と費用を積算しますれば實に莫大なる財貨を負ふて居るのであります。從て婦人の實任に至りましては赤裸裸のものと云はねばなりません。

古き俚言にお江戸のお人は米の成る木を知らぬと申す事がありますが今は都と鄙とを問はず、衣服の成る木を御存知なき方々が澤山ありはせぬかとの老婆心より、斯く餘白を借りて一言述べます次第であります。

言ふのならば之は事實を知らざるより起つた錯覚であつて余が二三の新種類を作つた點から見ても其の事實は直に解るのです。余は決して推論を爲すものではないから余は再び如何にせば新種類を生ずべきかを記すとしよう。如何にも或る一部の人の言ふが如く種類改良は困難な事實であります、一年や二年で直ぐ好結果は得られぬ、氣の短かい人には出來ぬ、精密の注意と忍耐力の強き人でなければ出來ぬ、目前の小利益に迷はる、人には尚ほ更出來ぬ、又熱心と練達も要する、又相當の學問も必要である、頑固な頭は一層困る、此等の缺點を去りて左の方法によれば新種類を作ることの出來るのは受合であります。

（一）撰出法　我が蠶の種類は今日まで余が實驗した所よると、種々な性質の異つた小種類を合したものが其多くは少しく法則として類別すれば、一種類より二三種類又數種類は容易に類別することが出來るもので、之を撰出するときは思ひもよらざる等の種類を撰出することが出來ます、之を撰出することは從來の混同育は最も妨害を爲すものであるから必ず一蛾一育となし、二三代其系統を正すようにするときは大抵固定した種類とすることが出來ます。

（二）雜種改良法　色々の種類の中から善良なる性質のみを蒐集して一部となし、新しき種類を生ずることが出來ます、すべて考へる通りなるように思はれますが今日遺傳學が進歩した爲に性質は自由に拔き差しが出來ることになりました、之は余も殆んど十年間實驗して居ますが決して想像説ではないのです、現に角蠶の性質のみを取り集めて、新種類を作ることは空想ではないのです、現に余は今日、一部の性質は、くわごとにして一部の性質は蠶となし新種類を作ることを所望して居ます、即ち桑蠶と家蠶と性質を一部宛合して新しき物を作つたものであります。

（三）雜種又は氣流の著しく異つた種類を交尾するときは爲めに性質の分解を起し、在來見だあらざる所の新種類を生ずることがあります、これは決して稀れではなく數々あるものであります、余は今迄數回此の如き場合に出合て居ります其中には善良のものもあれば、又不良のものもあるけれども善良なるものを得たときは、之れを撰出することを忘れてはならぬのであります。

（四）突然變異　其原因は不明だけれども同種類の中に往々其性質の著しく異つたものを發生することがあります。蠶では未だ其實例に遭遇したことはないけれども他の動植物には往々あることですから、之も亦た注意する必要があります。

（五）性質漸進法　こんな仕方で蠶の本性を根本から變化して成る可く費用がかゝらなくて比較的に收獲の多い種類を撰出するのが第一です、撰出した後は經驗上撰出法によりて飼育法なり、又は古來行はれたる桑積淘汰法を見ない程度で飼育法なり、其性質を一層變化させたならば尚ほ一層善良なる結果を得ることが出來ます、併し此方法は無に限に効力のあるものではなくて、只其蠶性の固有したる範圍の中のみで變化するものであるといふことを忘れないように願ひたい、之れを無限のものとするとは再び昔しの損失問題に逆戻をするようになります。

こんな法で余は新種類を作つたのです、決して机の上の推論ではないのです、併し余は何にせば新種類を作ることが出來るかと言ふことを諸君に告ぐれば深山です、夫れから先きは諸君の御奮ひみに任せして自由に御造りを願ひます。

地方の金持は何故に養蠶をせぬか

然らば何故にそんな種類の改良が必要かと言ふに、明治以來蠶色（なる方面で研究せられ、飼育法の如きは飯蜜極に進歩し界一の複雜なる方法と世界に類を見ざる複雜なる方法によりて實行せられあるにも關はらず、其結果は悪の外に進歩せずして進歩したる地方には、天保年代より今日と少しも變はらないのであります、否なる收獲よりも收益上更に進歩したる結果がないのです、言換れば手數が多くかゝる割合で、其利益の增加したかと言ふに實際は、更に增して居らぬ、翻ふに計算すれば今日の

甲州萬力の大桑園

蠶桑園は山梨郡の蠶業を進取東山梨郡上萬力村に在り同村の背後は山なる一面の地にて魯に萬力山地と稱す勝茶實上百十數町に亘る水利頗る佳良にして桑の大桑園なり

土地は農地に先頃の潮野大風の被害甚だしく殊に本年は蠶業の不振なりしに反して桑葉は豊作にして高く値段を維持し居る、中央に二本の白き樹突と相対して高く聳ゆる建物は山梨郡の蠶業組合長代表金子郡氏の新蠶室にして同郡の模範的のものなり

蠶業は決して金利に相當する利益を得る事業ではないのです、地方の金持ちが養蠶をせないのは尤もなことです、又工業に盛んな所では自然に蠶業の衰ふるも止むを得ざることであります。

農業の方でも同一の傾向のあるのは奇であります、彼れ等は無暗に肥料を施し又無暗に手數をかけて田の中を這廻り收獲を增すことは大に務めて居りますが實際の收益を考へると止は甚だ希薄であります、故に收獲が增加するに從つて肥料屋は繁盛し、つまり百姓は肥料屋の食い物になるような結果を呈する傾向がないでもないのであります。

無暗に手數を掛くるよりも善良なる種類を作れ

養蠶でも澤山なる繭を作り又多量の蠶繭を得たいと言ふ希望は皆な一致して、どうかして其收獲を增さうとして居ります、然るに如何にして品質を改良し如何にして收獲を加せしめんかと言ふ問題に對して、農業でも又蠶業でも研究が未だ根本的でない樣に思はれます、何故か、と言ふと今日我邦の收獲增加法の第一と

して考へらるゝ者は農業では耕作法、施肥法及病害蟲驅除法、蠶業でも之れと同じ樣に飼育法の改良と蠶沙海藻の二法であります、成程之れは眞理であります、二十世紀の今日はさて置き二百年も三百年前の事迄遡ると、其時代は野蠻人でも左程不承知したる事實であります、肥料を施せば植物が能く發達し適當なる飼育を爲せば蠶が能く生長して收穫が多くなります、至極尤もな考へであります。

所が此飼育法（又は耕作法）、即ち換ゆれば外界の狀態により生物が色々に變化するとは種類によりて各々一定の制限のあるものであり其種類に最も能く適したる狀態であれば手數の割合に結果が能いけれども之れを越ゆるに從て手數を加へたる割合に結果が善良なるものではない、一反の蠶に五十貫目の桑を與へて二斗の收繭あり百貫目與へたらば倍の收穫を得べき筈なれども其制限に加するものではない、替て桑養物が必要であるとしても其體側以上のものを與へれば消食を充て餘るばかりで蠶に害はあっても又養蠶家に損はあつても益は更にない、敎育によりて人間が利巧になると言ふ所で其能くなるは、生れ付きによりて程度が異り同じ學校で同一の敎育を受けても出來るものと、出來ないものゝあるのでも解ります。

故に敎育と言ふものゝ利益も其常人以上で適宜にせないと益を分かち、長い年月を費しても一向成績は挙らないものが世間には澤山あります、蠶も繭も同樣で、如何に飼育法に注意し耕作に力を盡した所で其本性以上の結果を生ずるものではない、是今日農蠶業の利益の薄き所以の一であります、而して經費の入ざる割合に收穫を增加せしむる一つの方法は善良なる種類を撰出するを最大捷徑とするのであります、米國では「バーバンク」氏が馬鈴薯の種類を改良して耕作施肥等は在來の儘として一舉に年々二千萬圓の增收を得たりと知き、又は「シュー、ベラー」氏が「ノルラエー」地方にて栽培することを得べき新種類を作りて其地方を利したるが如きを見れば如何に種類改良が實利あるものなるかを想像することが出來ます、故に諸君に望みますが無暗に手數をかくるよりも善良なる種類を作られたいものであります。

兎責に陥されたと同じ結果に陥つてはならぬ

終りに臨んで一言して置きたいのは何れの國でも同じことながら、一つの事柄が起ると直ちに火事場盜賊が飛び出してつまらぬ事で利益を得んとする傾きがあります、之が爲に善良なる事柄も打ち破られて仕舞ひます、豚が流行する、牛が流行する、鶏がよい、何んのかのと云つて利益するものはつまらぬものをかつぎ廻はして騒く迷中で、蠶業でも同樣で、假令新種類が出來ても其發見者の人より益格と上級迄と他に考へ安りに感がないやうにせられたるが、若し安りに新種類なる名稱の下に官勸するとなれば是實利益は最も必要なれども改良の名の下にかくれたる不正なる惡弊の係跡にかからぬよう與々も注意せられたいのであります。

蠶種を貯藏する場所に就て

學藝委員
農學士　石渡繁胤

何故に蠶を保護せねばならぬか

養蠶に關する學問が段々開けまして一作をする者が年一年に就て參りましたのは國家の爲向に喜ばしいことであります、併しマダ多くの當業者の中には折角開けた學理を應用することを知らないで、當業者の中には折角開けた學理を應用することを知らないで、徒に舊法をのみ、之れ大切と心得、當然取るべき利益を取らぬ計りでなく、中には非常に失敗を重ねて終に家産を傾けるに至る者もあります、之は何にも情ない話で到底文明の空氣を吸ふて居る者のする任事とは思はれない、心ある者の皆遺憾に思ふ處でありますが、彼の蠶種貯藏の如き其一例であります。

蠶卵の中に在る胚子は蛹蠶となつて孵化するまで常に卵殼の內で發育して居るもので、夫は丁度雞が母の腹內にある間は母體の養分で漸次發育し、人間の一個の體となつて生れ出ることが出來るのであります、卵殼に若しも變化を及ぼす發生する蠶見の健否と同じいやうなものであります、卵殼に變化があれば、隨て其胎兒にまで影響を及ぼす結果を誤つたならば其結果は必ず發生する蠶見の健否期に其孵生を誤ふのであります。

蠶種を貯藏する場所に就て

蠶種を貯藏する場所も近頃いろ〳〵有るやうに中也しては成者は土藏の二階北窓の處へ置が宜しいとも云ひ、又は者は風穴が良ともいつて居ります、そうかと思へば冷藏庫が良いといふ人もあり、或は雪國時藏が良いと主張する人もあります、尤も土藏の二階やなどに置きするのは、春期に孵立る蠶種を傷に冬の間丈け不時の暖氣に過ぎはせるとゝふ、位なぬのであります、風穴や氷穴又は冷藏庫や雪國等に至りては多の問題は難論のことと觀今海から及へかけて永い時期に藏しては多の問題は難論のことと觀今海から及へかけて永い時期に藏する目的の爲に夫々設備されてあることとなりますが、併し多くの風穴に就て之を調査して見ますと、永い間の歲に堪ゆる良風穴といつても其だ跡いのです、といふのは外ではない、孤度がいつも低くなつて居らないのです、即ち夏の極めて熱い

に至大の關係の有ることは云ふまでもないことであります、然るに右來の養蠶家は多く此點に注意せないで、蠶種をドコでも構はず吊して置いたり、或は箱笥の引出や又は戸棚へ入れて置くのであります、そうして冬季最も嫌ふ時の暖氣やなどに過はして乎氣で濕さし込て居るのであります、然らば蠶種はドノ樣な工合に保護すれば宜しいかと申しますれば、勿論其時季に依りて相違があります、又蠶種に依りても一樣でありません、夫等の事柄を殊に一々述べましては際限もありませぬから、皆之を略して致しますと致しまして私は蠶種を貯藏する場所といふことに就て少し御話し致したいのであります。

蠶種を貯藏する場所に就て

時分はいふまでもなく其外の時でも適當な溫度よりも高くなることがあるのであります、斯ういふ風に蠶種は貯藏には先づ不適當とはいはねばならぬが、冷藏庫の如きも子は充分の調査を敢てさゝぬから深くはいひねけれど、何しろ平地の溫度の比較的高い處で、然かも貯藏の期間が永い間のことであるから、溫度が目的の溫度よりも高くないやうに充分注意をすることが出來ずや否や、無論冷藏庫の如きは完全なる機械を裝置して遣ってあらうから、斯かる心配は入らぬやうなものではあるけれど、人工的の仕事は如何に完全なる器械を裝置しても時に或は千慮の一失がないとは限らぬから、冷藏庫に蠶種を貯藏せやうとする者は此點に就て大に注意警戒せられんとを願ひのであります。

貯藏に適當した溫度はツマリ卵内の胚子が發達せない丈けであれば良いので、華氏四十度以下ならば差支ないのですから、殊更非常な低溫に遇はする必要はありませぬ、といって、今一度二度高ければ直に不適當な溫度となるといふやうなキバドイ溫度で貯藏するのは危險であるから、此位の溫度ならば三度や五度はドー違っても差支ないといふ溫度の處で貯藏するやうに致したいのであります。

蚕兒共同飼育所

近頃雪國に貯藏もヤカ〳〵成績が良いやうにいひ出して來ました、京都の蠶業講習所でも先年新潟へ依託して雪の中へ貯藏して貰ひ、夫を試育したことがあります、爾來各所に於ける成績を聞いてみますと〳〵良いやうであります、之等も當業者としては大に注意すべき事柄であります。

要するに蠶種を貯藏せずに放任して置くなどとは論の道習で取るに足らぬことですが、併し風穴なり氷穴なり冷藏庫なり貯藏の場所に就ては大に適不適のあることですから、之を試備する者に於ては出來に大なく注意を拂ひて、イツ迄でも目的溫度を均一に保ち得るやうにせねばならぬことであります、又蠶種を依託する者も其適不適の點を充分調査して然して後委託するやうにせられたいものであります。

宮城蚕業試驗場の調査

さうだ

蠶業組織下重要の生産專業にして即將來大發達の餘地あるを以て之が發達の方法を講ずべき緊要の事なりと雖も然るに專業は時代に動搖もすれば勞力分配の調和を失ひ相互の進捗時機を失ひ作業上の調和を缺き其比較的繁劇なる蚕業の事なる點に於ては蚕業は一般に勞力

から、極多きは七八百貫反とか實に大した收穫を現に爲しつゝある者さへある位であります。

改良の結果少くも現收の二三倍

が、此桑葉量を極く内輪に積つて平均二百貫反としても之を彼の現在の收穫百貫反に比すれば即ち二倍で、殺增は其宜しきを得るに於ては平均三百貫以上たらしむるも決して難事とは思はれませぬ、獨々是が難事でないとしたらどうやらう、其上から觀て、寸地を增さず、一株を加へ、現在の桑園を優、我が繭の產額をして優に二倍たらしむるも決して難事でない、何と愉快な話では御座らぬか、即ち是れ本題の桑園改良の最大急務なる所以の二で、殊に此改良に從ふは決して錢々の爲ばかりではない自然恐れ多くも彼の

改良の手段は先づ與へて取れ

改良の手段は繭々あるが狹い紙面では容易に盡されぬから委細は拙著「桑園問答」に讓るとして、差當り在來の桑園を其儘改良しようには先づ與へて而して後に取るの心掛けが肝要であります。

（群馬縣桑園改良試驗場）

從て和當の肥料を施す事は勿論肝要なるが、凡そ肥料を施すに當つては容易に盡されぬから中最も廣價につくのは綠肥だ、中央時に緩效なるが、其中央時に間に程よく大豆を厚く敷いてまだ實を結ばぬ内に天氣の好い日許乾してから疎密なく鋤込んで其上から肥料を施して、花を見て朝の内に拔取り約半

洲七百七百八十三年今より百二十六年前に「カラーブル」州を破壊せしめましたが、千九百五年僅かに四年前にも激震があつて我々も能く記憶して居るが、二三百年前は蠶絲業も今日の如く發達して居ないから其被害の程度も察せられますが、今回の地震は一島一洲の二國に亙り而かも蠶業が大に増進して居る丈け、被害の範圍が多く且つ大いなるもので、重々の不幸實に察するに猶ほ餘りあることであります。

震災地の繭及製絲高

往昔微粒子寄の伊國に蔓延した頃には、我日本種が大に飼育せられたのが固有の黄繭種が回復すると同時に、蠶種は安白繭種と黄繭種とを掛合せて飼育する者が増加して、製絲家も之れを嗜好する者が殖へて、近年「ロンバルヂ」州即ち美麗附近の蠶家は全然此種を用ひ、「ピエモン」洲其他伊國中央は漸々之れを就迎して居る樣で、伊太利全國を通じて六割方此掛合種を飼育する樣である、而して「シヽール」島及び「カラーブル」州は依然黄繭種を飼育して居る樣であります、其繭の產額は此島此洲を區別した統計は分らぬが、伊國蠶絲業組合の最近調査によれば左の如くである。

伊太利全國

千九百三年（明治三十六年）	四四、五九八、〇〇〇
千九百四年（三十七年）	五六、六〇七、〇〇〇
千九百五年（三十八年）	五一、九四〇、〇〇〇
千九百六年（三十九年）	五三、八三八、〇〇〇
千九百七年（四十年）	五七、〇五六、〇〇〇
五ヶ年平均	五二、八〇八、二〇〇

「シヽール」島及び「カラーブル」州

千九百三年	三、一八七、〇〇〇
千九百四年	三、六一三、〇〇〇
千九百五年	三、四三五、〇〇〇
千九百六年	二、七五〇、〇〇〇
千九百七年	三、一七七、〇〇〇
五ヶ年平均	三、二三二、四〇〇

此統計によれば伊國繭總產出高の百分の六位であります、又此地方の蠶絲業は微弱火力であつたが、千八百六十三年（文久三年）の「シヽール」島「メシーヌ」市に於て初めて蒸汽機を施しました、千八百七十年（明治三年）「カラーブル」州「ナンジヲフ」市に總て改良を加へた、器械製絲場を設けたが之れが模範となつて續々舊式を改造するに至り、去る明治三十九年の伊國製絲業地の中心となつて居ります、此市は伊國蠶絲業雜誌の報告統計によれば當時「シヽール」島及び「カラーブル」州に存在した製絲工場數等は即ち。

工場數	釜數	工男女數
「カラーブル」州		
「シヽール」島	一、七〇六	三、八一二
合計	四五四	一、三三八
	六二	五一五〇
	七	二、一六〇
	六九	六、四四〇

此地方累年生絲の產額は詳かでないが、佛國絹業雜誌の報告する處によれば、一ヶ年平均二千萬キロ」であります、最近五ヶ年間伊太利全國の生絲產額は即ち。

千九百三年	三、五二六、〇〇〇、〇〇〇
千九百四年	四、九〇〇、〇〇〇
千九百五年	四、四四〇、〇〇〇
千九百六年	四、三四〇、〇〇〇
千九百七年	四、五五〇、〇〇〇
五ヶ年平均	四、四八二、〇〇〇、〇〇〇

伊太利全國の生絲產出高平均四百四十八萬六千二百「キロ」に對する、「シヽール」島及び「カラーブル」州の產出高二十萬「キロ」は即ち百分の四であります。

震災に係はる製絲價額減減豫想

今回震災に襲りた蠶業地被害の程度は未だ詳かにせぬが外報に據れば「メシーヌ」海峽の南沿岸に植付けある桑園は全然潰敗されたる樣であります、而して製絲場の如きは前に述べた製絲業の最も盛んなる「サンジヲフニー」市を始め其他に於て最も激烈なる震動により潰倒されました、有名の工場數は「カラーブル」州に十七ケ所「シヽール」島に五ケ所都合二十二ケ所であります、此外總ての工場に於て製造する生絲の高は前に述べた二十萬「キル」でありますが、佛國里昂に於て評する處によれば、大凡其三分の二は今後容易に挽回することは出來ぬであろう、今茲に伊國全體の生絲產出價額を考へて見るに、五ヶ年平均の產額に依り一「キル」年均價格を四十五法（一法九仏之三十九銭）とすれば七千六百三十三萬圓餘であります、然るに「メシーヌ」絲は概ね優等に屬して居るから一「キル」平均五十法と見積れば二十萬「キル」の三分の二は約一百五十萬圓に相當して、此金額が今回の震災の爲めになくなる割合であります。

伊國メシーヌ市大震災後の光景

「メシーヌ」絲の減減と里昂市場の影響

從來「メシーヌ」絲は伊國「ピエモン」絲と相並んで賞行きつゝあるが、其品質は色澤美しく强伸共に多く趣味に富み且つ類節も其だ寡き方で佛國里昂特種の絲物就中輸藏「モスリン」等の經絲に供せられて居ります、之れが爲め里昂の生絲商は密接の關係があつて、此生絲は同市の殖んど專有物となつて居るのであり

ます、是迄の需要者が今回震災の報に接するや、直に同業組合の集會を開き電報を以て佛國海軍大臣に救害者たる伊國製絲家及生絲商を救助せらるゝ樣艦隊司令長官に特に命令せられんことを請願しました、之と同時に伊國蠶絲業組合に見電報を發し續て救助金募集に着手した樣であります。

惟ふに「メシーヌ」絲の減産は伊國の全體のそれに比すれば敢て多くの影響とは言ふ程のものでないが、里昂機業家に對しては殆かられぬ影響であると思はれます、而して「シャール」島及び「カラーブル」州に於て原料繭は或は數年内に出來るにもせよ、此震災の爲め熱繰絲にしたる女工等の熟れたる者も少からぬ樣であります、又は生産者中には續々南米に移住する者も多く樣であります、勞働力製絲業の國民的富業者は知らるゝと評して居る者が多いのであります、我邦富業者は機業家の如く昨年來引續き繭等の需要者に對して上海繭糸會社の多い際に中に今回の出來物を買入れ、其之を注文の際に中に今回の出來物を買入れ、其之を注文の多い際に中に今回の出來物を買入れ、

「メシーヌ」絲の代用品を我製絲家に望む

「メシーヌ」絲の里昂市場に對する影響は斯の如き狀況であつて、他の獨米市場には餘り關係を生ぜざる樣であります、此際我製絲家に大に研究して貰ひたいことがあります、我邦の生絲は近年米國は勿論歐洲諸國にも輸出高を增しなは質に長足の進歩であると言はなければなりませぬ、然るに歐洲に於て我生絲の需要の現狀を考へて見ると繰絲にも用ひらるるが、多くは繰絲であつて上一番格乃至準飛切のものが多い從來歐洲の機業家は繰絲を伊佛又は支那上海に仰ひで居るが、何故我邦の生絲は彼等同樣の飛切物が出來ぬのか是れは原料及び製絲法等に就て改良すべき點があるが、蓋し米國向は商内も仕易く利益も比較的多ひのであらうと思はるゝ、歐洲に於ても上一等繰物に使用する生絲であります、現に支那上海の飛切ものは世界第一位の相場を保つて居ります、斯の如く優等品の新販路を確實に開拓せんとするに今日我邦蠶絲業の發展するに從ひ、種々の方面に販路を擴張することは最も緊急の事であると思はれます、實くは里昂市が今回伊國震災の爲めに特樣の原料を失ひ其だ苦慮しつゝあるに際し、我製絲家奮勵一番「メシーヌ」絲の代用品を供給せられんことを切望して已まのであります。

桑の青尺蠖と角尺蠖（新害蟲）

學藝委員
農學士　明石　弘

桑樹を害する尺蠖類の最も著しきは枝尺蠖であることは云ふ迄もなく尺蠖の害が之れに次で居ります、然るに予は明治三十九年以來に二種を見出した、之れ以下に述べやうと思ふ所の桑の青尺蠖及び角尺蠖であります。

一、桑の青尺蠖　Boarmia Sakuraria Hb.

桑の青尺蠖は一年三回發生するもので蛹態で越年し、五月上旬繭となります。

繭は卵型で灰白色小形で複眼は紫褐色を呈し、觸角は雄に於ては羽狀を為して居るけれども雌に於ては糸狀を為して居る、胸部及び翅は灰白色で、前翅には三個の波狀線があり、其翅端に存ずるものは黑色で內方更に黃褐色の帶狀紋を存し、中央にあるものは暗黃褐色で尙一個の灰白色の環紋があります、外緣に沿ふて黑色の點線を存して居ります、後翅には二個の黑色波狀線があり、內方に存するものは其幅廣くして中室橫脈上には不鮮明なる灰白色紋がある、外方に存するものは其幅が細くて外方に黃褐帶を存し、外緣に前翅と同じく黑色の點線を存して居ります、腹部は灰白色で雌に於ては末端に細長き產卵器を有して居るが、平常は內部に隱れて居ります、雌は體長六分翅の開帳一寸五分雄は體長五分五厘翅の開帳一寸四分內外あります。

雌は交尾の後其長き產卵器を伸して桑樹枝幹の裂隙等に其卵を散產するのであります、產卵當時は綠色であるが孵化前に至れば黑褐色に變じます。

卵は扁平なる圓形で直徑二厘餘であります、產卵數は五月下旬若しくは六月上旬の頃孵化して幼蟲となります。

幼蟲は頭部淡褐色で紫褐色の細點を密布し、胴部は淡綠色若くは帶綠褐色を呈し第五環節の背面には一對の橙黃色の突起を存し、其前方に紋狀の黑紋を有して居ります、氣門は白色で黑色の黑圈を存し、胸脚は黃綠色を呈し腹脚は綠褐色で第九及第十二の兩環節に存するのみであります、充分成長するとき體長二寸餘に達します。

幼蟲は幼稚なる時期には絲網を吐きて垂下し、風に乘して僵振し活潑に歩行するものであるが、成長した後は主として桑樹を害する尺蠖類中最も著しきは枝尺蠖であることは云ふ迄もなく尺蠖の害が之れに次で居ります、然るに予は明治三十九年以來に二種を見出した、之れ以下に述べやうと思ふ所の桑の青尺蠖及び角尺蠖であります。

一、桑の青尺蠖　Boarmia Sakuraria Hb.

桑の青尺蠖は一年三回發生するもので蛹態で越年し、五月上旬繭となります。

繭は卵型で灰白色小形で複眼は紫褐色を呈し、觸角は雄に於ては羽狀を為して居るけれども雌に於ては糸狀を為して居る、胸部及び翅は灰白色で、前翅には三個の波狀線があり、其翅端に存ずるものは黑色で內方更に黃褐色の帶狀紋を存し、中央にあるものは暗黃褐色で尙一個の灰白色の環紋があります、外緣に沿ふて黑色の點線を存して居ります、後翅には二個の黑色波狀線があり、內方に存するものは其幅廣くして中室橫脈上には不鮮明なる灰白色紋がある、外方に存するものは其幅が細くて外方に黃褐帶を存し、外緣に前翅と同じく黑色の點線を存して居ります、腹部は灰白色で雌に於ては末端に細長き產卵器を有して居るが、平常は內部に隱れて居ります、雌は體長六分翅の開帳一寸五分雄は體長五分五厘翅の開帳一寸四分內外あります。

雌は交尾の後其長き產卵器を伸して桑樹枝幹の裂隙等に其卵を散產するのであります、產卵當時は綠色であるが孵化前に至れば黑褐色に變じます。

卵は扁平なる圓形で直徑二厘餘であります、產卵數は五月下旬若しくは六月上旬の頃孵化して幼蟲となります。

幼蟲は頭部淡褐色で紫褐色の細點を密布し、胴部は淡綠色若くは帶綠褐色を呈し第五環節の背面には一對の橙黃色の突起を存し、其前方に紋狀の黑紋を有して居ります、氣門は白色で黑色の黑圈を存し、胸脚は黃綠色を呈し腹脚は綠褐色で第九及第十二の兩環節に存するのみであります、充分成長するとき體長二寸餘に達します。

幼蟲は幼稚なる時期には絲網を吐きて垂下し、風に乘して僵振し活潑に歩行するものであるが、成長した後は主として

夜間桑葉を食害し、晝間は腹脚を以て枝條に固着し胸脚を以て繁茂若しくは新梢を抱きて靜止するものであります、而して其發生の時期が桑樹新梢の伸長した頃で、蠶の體色がよく之に似て居るから發見するに困難であります、桑葉の充分伸長した頃より現はれて葉を害する所の枝尺蠖の體色が枝條の色に似、又桑葉の發育し新梢を生じてから現はるゝ所の青尺蠖が其體色の之れに似て居ると云ふと云ふ點が蠶の島と類し其他の侵害を免れて繁殖し得らるゝ所以であります、桑の青尺蠖は桑葉を食害して成長し、四回の脱皮を終りたる後六月下旬に至り老熟し土中に蟄して蛹となります。

蛹は圓筒形で末端細まり暗褐色を呈し體長七分内外であります。

蛹は七月中下旬の頃羽化して產卵す七月下旬之れより第二化の幼蟲發生し、八月上旬化蛹し、第三化の幼蟲は八月下旬發生し、十月上旬蛹となり其儘越年するものであります。

桑の青尺蠖を驅除するには左の方法を行ふがよいのです。

一、早春枝條に群產せられたる卵塊を採集すれば効最も多いが、卵は實に微小なるものであるから熟練せなければ困難であります。

二、葉柄若くば新梢を抱きて靜止せる幼蟲を捕殺するがよい、但し新梢伸長し葉の繁茂せる時期なれば枝尺蠖の探集より一層緻密なる注意を要します。

二、桑の角尺蠖 Amphidasys sp.

桑の角尺蠖は一年一回の發生をなすもので蛹態を以て越年し、四月下旬の頃羽化します。

蛾は頭部は小さくして灰白色を呈し、觸角は黒褐色をなし、翅は灰白色にして黑環を交へて居る胸部及び腹部は淡灰褐色にして翅面に白色の小點散布し、前翅は背面及び側線の基部は暗灰色で、各環節に於て一對の黑點を存して居る、體長八分翅の開帳二寸三分内外であります。

雌蛾は桑樹等の枝幹に其卵を群產する卵は扁平なる圓形で灰紫色を呈し、直徑三厘内外ある、之れより五月中下旬の頃幼蟲發生いたします。

幼蟲は頭部灰褐色で二個の角狀突起を存し、胴部は圓筒形で灰褐色で、各環節の背面には暗色の矢羽狀の斑紋をなし灰褐色で、體長一寸内外で、其體は圓筒形で、第四第七第八環節の氣門上線及び第十一環節の腹背線には各一(双)の突起を存して居ります、腹脚は淡褐色であります、充分成長するときは體長二寸五分内外に達します。

幼蟲は幼齡の頃は除り桑樹に於て見出すことなく、主に樗類の葉を食害するもの、如く、これを飼育する場合にも桑葉を嫌ひ樗葉を好んで食します、桑樹に飼育することが出來ます、其食害を受けは主として夜間で、晝間は枝尺蠖の如く腹脚で枝條に其體を斜に支持して靜止するのであるが、本種は幼蟲期長く長く六七回の脱皮を經たる後八月中下旬の頃老熟し、土中に入りて蛹となり其儘越年するものであります。

蛹は圓筒形をなし大に肥大し黑褐色を呈し、尾端には一個の刺を有し其體長一寸内外であります。

本種を驅除するには枝條に群產せられたる卵塊を清殺するか、幼蟲を捕殺するより他に良法はないのであります。

蠶絲業家奮闘の最好機

學藝委員　吉池慶正

吾々が借屋住居をして居る此の天體の一部分たる地球は、是非天體の支配を受けねばならぬ、百花爛漫として鳥が歌ひ狂ふ春ばかりは、氷かれかしと何人も願ふ處であるが、かの間に過ぎて苦しい寒、淋しい秋、厭な冬が、僅か一年と云ふ短かい月日にも過つて來る、日數に積つて見れば春でも寒くも、大した相違はないが、樂しい季節は短かくつて、厭な苦しい季節は永く樣に思はれる、此の自然の季節には如何なる力を持つて居ても勝つことは出來ない、が併し吾輩が見て以て自然の惡戯と爲すものには勝つことが出來る。

抑も自然の惡戯とは何？

世の中の不景氣と云ふ事である、見渡す處聞く處、不景氣の聲ならざるはなしと云ふ有樣、又全く不景氣に相違あるまい、併し茲が考へねばならぬ處である、此の不景氣と云ふ

出來事は、一年に春夏秋冬が來る樣に、必ず來ねばならぬのだらうか、若しも之が今日を終れば明日が來ると云ふ工合に必ず來るものとすれば、只待手して居つても通り越して任せふから世話はないが、不景氣計りは懶手では通り越さぬ、通り越しもせぬが又來て呉れといつた處でいつても來るといふものでもない、何處に住居して居るのか、何處で製造するのか夫れさへ判らぬが余は之を稱して自然の悪戯であるといつたいのである、誰れも好みもせず招きもせず希くは好い景氣なれかしと願ふて常々働て居るにも係らず來るのは自然の悪戯でなくつて何であらう、悪戯でなければ悪戯でないにしても來たものは仕方がないが。

一體何用あつて來た

のであらう、之が誠に面白い意味を持つて居るのであるが、聞く處に依れば此の不景氣と云ふ聲に痛く返つて、先途を悲觀し、持つた金は放さぬ、桑は植ゑぬ、掃立は手控ゆると云ふ樣な處があるやうであるが。

第することが即ち吾が力で自然の悪戯を成るのではあるまいか、我蠶絲業界は不幸にして一昨年末期以來此の悪戯に輾轉せられ、今や最極點に達して居る樣である、此の頃五月に不景氣の見舞を受けて苦しむのは、實に馬鹿〳〵しい感じがするが、たらばとて打棄て置くことは出來ぬ、各自が之を打破る決心を持ち無羽の精力を注いで努力せねばならぬ。

直段目當の景氣回復は大間違い

此の不景氣を取直すには誠なる生絲なりの直段が高くさへなれば好いと思ふたら、夫れは間違ひの種である、高くなつたものは安くなるし、安いものが何時か高くなるのは當然のことで、之を目當てに蠶絲業に從事するなら又再び不景氣だと言ふ息吐息の時節が來る、我蠶業界は斯かる所以の景氣回復ではない、何處迄も稍極的に吾が力と、吾が腕と、吾が鎌とに依りて之を回復せねばならぬといふのである、不景氣と云ふことは之を跡骨にいへば金が手に入らぬと云ふに過ぎない之を手に入れるには、神に願んでも人に願んでも駄目だ吾を救ふものは吾力より外にない不景氣を取直すものは各自の力よりも外になくして、之が誠に面白い意味を持つて居るが、聞く處に依れば此の不景氣と云ふ聲に痛く返つて、先途を悲觀し、持つた金は放さぬ、桑は植ゑぬ、掃立は手控ゆると云ふ樣な處があるやうであるが。

何たる大間違ひだらう

持つた金を放さぬと云ふのは、結構かも知れぬが桑も植ゑず、掃立も手控ゆると云ふ樣な事では、不景氣を回復する人迄でなくつて何でせう、蠶業生絲の直段が高いから桑を植ゑて、掃立を多くしてウント取り生せうと云ふ人は多いが、蠶なり生絲なりが安いから、此の安い分は吾が力で埋め合せる爲にウント取らねばならぬ、斯くて不景氣を回復せねばならぬと云ふ人が少くないやうである、何と云ふ考へ違へをして居るだらう、實に困つた事ではないか、何と云ふ考へ違へをして宜しい、夫れが證據に繭られた人が全く悪戯に繭られたと云ふて宜しい、夫れが證據に繭は昨年度製造した種は左程多くもなかつたが、掃けぬ地方ではそろ〳〵桑の賣買が始まつて、小景氣の用く時であると云ふし、桑苗は賣れぬと云ふし、又平年ならば今頃は關東地方ではそろ〳〵桑の賣買が始まつて、小景氣の用く時であるに、其使もなければ又會々賣買の話しがあつても無茶に安いと云ふ話しであるし、されば桑なり、桑の伸は平年に劣ると云ふし、種が多いか、親蚕高は多くない、然らば即ち繭生絲の直段が高いから事業を縮めやうと云ふ、氣合が益に表はれて居るではないか。

將來の爲に憂ふ

手控へても好しい、但し吾輩の云ふ手控へて好いと云ふ意味には活氣を含んで居る手控方でなくてはならぬ、即ち手控ゆるのは窮武者の逃ぐると同じである、モ一歩進めて八方塞り逃ぐるに途なしと來たら何とする、今の蠶絲業界は、殺に臨んで居るではないか、吾之よりもモット勝つた切り破ればならぬ、之の出來る義手が目の前にウロ〳〵して居るではないか、殺だ吾力で我を救へと云ふのは。

何處に光明があるか

生絲の賣れる事と既に米國の經濟界は順調に向ひ、大統領タフト氏は三月二日に就任した事である、若しも掃立を手控へ桑も植ゑず、在る桑を餘らして逃るも他に代るべき制合の好いものがあれば何て吾輩が斯る事を語れに憂へしませう、他に求めてないし又昨年並とした處が極めて有利の副業ではないか、賣れなくつて安いのなら全く の悲觀に相違ないが安くとも賣れるではないか、唯四十年度に千五六百圓と云ふ時ならぬ花が咲いたから四十一年度のやうな裏んだ時も來たのであるが、一度自然で散つた花を又咲かせやうとするのは無理である、全くと云ふ同じ合に花を咲かせやうと云ふのは無理であるが、同じやうな事は何でもない事である、其にいと易い事である、桑は安いと云ふし、種は美良のものがあるし、生絲はズン〳〵賣れるのである、デあるから各自が

苦を物じて樂とし、精神的に積極的に働いて安い分の理め合せに澤山取るやうにしたならば同じ様の結果に帰し合はせに澤山取るやうにしたならば同じ様に花を咲かしむることが出來るではないか、今は我徒の罵に乗ずべき時機である、然り眞に是より外に途はない。幸なる事には農業者は他の業務とは違つて、心の込め様で自分の不景氣は直ちに回復することが出來る、鳴呼自然は實に樂しい生涯を我々に與へて居るではないか、商業は何に努力しても多数農家の景氣が回復せねば、農家が自分で不景氣を回復し得る様な工合には行かぬ、此點からあれば幸福の地位に立つて居るではないか。

努力……努力……向上

之をつゝめて云へば、此の不景氣は自然の力で突たのではなくして自然の賜物であるから、各自の奮努力に依りて之を挽回せねばならぬ、此禍福を訐く既は自の腕と鉞とに在つて、借屋住居ではあるが地球の表面は吾等の取るに任せてあるから、徒らに悲觀的に陷つて、爲すべきことも爲さず取るべきものも取らずに徒ではならぬ、今は蠶絲業者が奮闘すべき好機——正に幾活すべき時機である、武士の戰場に臨んだ時と同じである、希くは四十二年度に於る蠶絲業家は、花々しく物凄かしくない様に奮闘すべく今から準備して貰いたい、之を系知して貰へば吾輩の本懐であるし又國家の幸福と信ずるのである。

問答

再出卵の試育其他の件に就き質問

愛知蠶業試驗場　杉浦喜太郎

(一) 蠶種から再出するのを（微分つゝ二化ぜり）飼育し之から製造した蠶卵を明春試育しつゝと思ひますが（1）蟻性（2）蟻質（3）風穴種となすの可否御伺ひたい。

(二) 風穴種と生種とに於て同じ二化性の種であつても蟻度及解舒に差異のあるのは何故ですか。

答

(一) 蠶種から再出した蠶兒の產卵が、翌年風穴種として飼育するのは極めて適當なことで、蟻性も虛弱でなく強質で、蟻質も好良であります。

(二) 同じ品種に、同じ處で同樣の飼育を施したものであれば、同種類の風穴種と生種とで溫度の解舒に差異を生ずべき筈はない、故に考えられたれば解舒中の經過に差異ありと結果か、若しくは生種に於て原蠶の飼育如何に關係するものであらう。

蠶蛾盛嗣に關する質問

福島縣蠶業常會員　廣田磯一郎

發蛾の際蛾口に赤白二色あるのに就て其後何々な説く者がありますけれども未だ詳しいことが解りませんから何の説い。

答。

發蛾の際に出發蛾口蛾系にて汚染すると言ふ説に由り其蛾に強弱の差あることと知ちない、思ふに出發蛾の汚染するは發蛾の際飲料するに由るのであるが、元來此系は蛾口の排泄物くあつて、化蛾後必ず排出するものであるから、其説過の理は蛾體の健否には關係しないのいうだ。

石油の臭氣に就き質問

福島縣蠶業常會員　大久保勇藏

蚕の附近に煙來工場が新設されましたが粗來なる石油を燃料とするらしい、風の向に依り惡臭の來ることが甚しい之は蠶業に悪のないものでせうか。

答　學藝委員農學士　林　驛作

工場にて粗製の石油を燃料とするので、其れより發生した煙の惡臭に悩まされしたるが蚕兒に給與するのは有害である、けれども其害たる臭氣若くは煙燻の分量により多少があちらから其の程度に明否し難い。

病毒の空氣傳染に就き質問

福島縣蠶業會員　大久保勇藏

病毒の多い養蠶室に十分の空氣なし、蠶具等に觸れないやうにして蠶種を冬期貯藏の時迄置いたならば、室内の空氣により其蠶種に病毒を傳染するのでせうか。

答　學藝委員農學士　林　驛作

病毒多い蠶室内に蠶種を置くときは、何今蠶具等には少しも觸れない樣に注意しても僅かな風又は人の出入等により其蠶種に病毒を傳染して空氣中に浮遊することもあらう、其種紙を蠶室に貯藏すれば空氣蠶の發生に際し、病毒の一部を共に之を食入し發病するようになる、但有の如く種の外面に附着せる病毒は竹紙箱の時迄置いたならば、室内の空氣により其蠶種に病毒を傳染するのである。

福島地方に於ける内地式諸足諸蔟製繭器械の結繭狀況

上蔟終了後の病蠶に就き質問

福島縣蠶業常會員　廣瀬愼治

上蔟の終了期に於て毒年不適の蠶を生じ、長く給桑するときは高蔟の如くになつて結繭せない故、俵上他の熟蠶若は休直に上蔟せしめると結過の結繭を發生します、之に如何なる原因から來るものですか、又之には病蠶でありますか御教示さい。

答　學藝委員農學士　林　驛作

上蔟の次期に於て健蚕後に體色不透明の類ありて蔟いて繭を造るとは徒に發死するけれども、却て早く上蔟するときは河豚蔟等位なことのある蠶は、色々養蠶の謬むるところである、是れは節高蠶と同樣な病蠶で病毒の一種である、此病蠶の發生を防ぐには種々の注意を要する點があるけれども特に上蔟前の蚕に注意し、又給少を行ひ蠶座の溫潤なるぬやうにするのが肝要である。

母蛾の病毒に就き質問

福島縣蠶業常會員　中根周文

(一) 產卵後の母蛾を他の乾燥に直に檢査した處が病毒五分以内であつたが同母蛾を乾燥の後共に釣し置き數月の後檢査した處が其病毒が三割強となりました之は保存中病毒が傳染したのでせうか。

(二) 同母蛾を他の乾燥と同じく十分に乾燥せしめ置き數月の後檢査した處に全く病毒を見出すことが出來なかつた者は病毒は消滅するものでありませうか。

(一)(二) 產卵後直に病毒の檢査を行ふもの、數ヶ月經過したものの檢査せるものとにより病毒を今の種ふのは保存中に病毒の傳染したものではないか、既に發

答　學藝委員農學士　林　驛作

(一) 產卵後直に病毒の檢査を行ふもの、數ヶ月經過したものの檢査せるものとにより病毒を今の種ふのは保存中に病毒の傳染したものではないか、既に發

生した微粒子が、産卵當時の雌蛾にあつては體内に蓄て來蔵せるものでも、時日を經るときは増殖するから、病毒が認め易すやうになるのである。

(二) 過度に乾燥するときは絹蛾内の絹素は其形に變化なし、遂には殆んど之を認め難いやうになり、殆も絹蛾の絹素が消滅したやうの觀がある、勿論顕微鏡上絹素とすれば絹毒の存在には誤認することは決ないけれども、未熟の病原体には認むることが困難である、此の如き場合には苛性加里溶液の二十「パーセント」位のものを注加し、暫時の後顕微鏡するときは容易に絹毒の存在を知ることが出來るものである、何となれば過乾のために變形せる微粒子は苛性加里により其形を恢復するからである。

經濟的乾繭器に就き質問

齋藤次郎吉

(一) 各地に乾繭器の發明がありましても或は價格不廉であるとか、動力が入るとか頗る微細なる問題を築するとか、一到一宗で未だ簡便にして實用上理想的のものはないやうである、深く從來の發明器中に過義録の發明器に就き研究せられたいと思ふ。

答　農務委員　林　驛　作

從來發明の乾繭器中に普通發蛾器が極めて經濟的に設備なし得られ、且其成績も余無缺なるものの如く未だ明言し難いが小規模の乾繭器としては本會々報第百五十號三十六ページに記載あるものは比較的簡便と云はれねばならぬ。

絲樓絹太に關する質問

福島縣蚕業會員　廣田榮一郎

(一) 多化性にして二化類を要、二化期を夏、冬化期を秋に飼育しなければ各樓繭の絹太に關係あり、ませうか若し有りとすれば其理由如何に御聞きしたい。

答　農務委員農學士　林　驛　作

(二) 多化性蚕の繭は絹育時期の異にすると雖度に差を生ずることは殆しくない、但前の繭度は同一種類の蚕でも、飼料の讓者飼育の如何、上蔟中の氣候等にもよりて多少異なるものであるから一定不變のものではないのである。

明治四十一年度經常部決算

金七萬七千弗百拾五圓七拾六錢四厘　總收入

内訳

金五萬九千七百四拾八圓　會費
金壹萬四千五百四拾八圓七拾錢五厘　會報代及廣告料

内訳

金八千六百五拾九圓四拾壹錢五厘　會報代
金五千八百八拾九圓貳拾七錢　廣告料
金九百四拾五圓五錢九厘　雜收入
金五百四拾七圓貳拾貳錢九厘　雜收入
金五百五拾六圓六拾九錢　雜收入
金貳百四拾壹圓拾八錢　雜收入
預金利子　雜收入
金貳百四拾壹圓拾八錢　預金利子
金貳千圓　總支出

内訳

金貳萬四千五百七拾七圓九拾七錢七厘　總支出
金壹萬貳千四百九拾九圓五拾六錢貳厘　印刷費
金壹萬貳千四百九拾八圓壹錢五厘　事業費
金七百九拾八圓六拾壹錢五厘　集會費

金八百七拾九圓六拾壹錢　賞品費
金壹千六百壹拾壹錢　讓渡及交際費
金五百圓　交際費
金六千五拾圓九拾錢五厘　傳給及繕給費

内訳

金壹千六百六拾八圓
金壹千六百九拾壹圓七拾錢五厘　雜費
金四百九拾七圓六拾六錢　雜費
金貳千六百九拾九圓五拾四錢五厘　通信運搬料

内訳

金貳千五百四拾五圓六拾壹錢五厘　郵便電信料
金五拾壹圓貳拾錢　電話料
金百壹圓七拾壹錢　恵贈料
金壹千壹百貳拾五圓貳拾貳錢貳厘　備品及雜費

内訳

金六拾六圓六拾九錢　備品費
金百五圓四拾錢　公租
金五百貳拾七圓八拾壹錢六厘　借地料
金九拾五錢　修繕費
金百九拾五圓　家屋保險料
金貳拾五圓貳拾八錢　給水料
金貳拾壹圓貳拾八錢　官報及新聞
金百四拾九圓貳拾八錢五厘　雜費
金貳百四拾壹圓拾九錢壹厘　雜費
金壹萬四千壹百拾六圓九拾七錢九厘　交付金

内訳

金貳千七百拾九圓五拾貳錢六厘　支會交付金

金百六拾八圓六拾五厘
金壹千壹百八拾八圓八拾四錢八厘
金壹千七百貳拾壹圓八拾壹錢五厘

内訳

金八拾壹圓八拾壹錢五厘
金壹萬壹千壹百五拾壹錢壹厘
金貳千圓

明治四十一年度基本金收支決算

金壹萬四千六百壹拾五圓拾五錢八厘　總收入

内訳

金壹萬九百五拾六圓拾八錢壹厘
金貳百六拾貳圓四拾五錢
金七圓五拾錢
金貳拾貳圓貳拾錢
金壹千壹百六拾七圓拾貳錢五厘
金壹萬四千六百壹拾五錢八厘　總支出

内訳

金壹萬壹千壹百七拾八圓四錢
金貳千五百圓
金七百五拾七圓拾壹錢
金八厘

明治四十一年度建築資金收支決算

金壹千貳百八拾貳圓貳拾四錢　總收入

内訳

金百七拾六圓四拾錢
金壹千百壹拾貳圓八拾四錢
金壹千貳百八拾貳圓貳拾四錢　總支出

熱方農員部交付金
會報代及廣告料
積立金利子
公債及預金利子
公債乘替環金
四十年度經常部積立金利子
預金及現金

總收入

借地料
定期預金
當座預金
現金

預金利子
前年度末預金

總支出

會務錄事

明治四十一年度臨時部決算

內　訳

金壹萬六千百八錢貳拾四錢

金參千貳百八拾錢貳拾四錢

金壹千四百五拾錢

金壹萬參千參百七拾八圓四錢

金貳萬六千百八錢貳拾八錢

臨時部ニ流用

總　收　入

金壹萬六千百八錢貳拾四錢

內　訳

金參千貳百八拾錢貳拾四錢

金壹千四百五拾錢

金壹萬參千參百七拾八圓四錢

金貳萬六千百八錢貳拾八錢

總築費金流用

家屋購入手數料

家屋買拂金

基本金流用

支出

金九千圓

金百八拾錢

金貳千百參拾錢

金壹千八百五圓四錢

金壹千參百貳拾四圓五拾八錢

金壹百五拾錢五圓九拾六錢

金參百錢

金五百貳拾四錢

金五百貳拾四錢五拾四錢

金五拾錢五拾錢

金參拾八錢五拾錢

總築費

家屋購入代

家屋買拂金

基本金流用

支出

家屋購入代

登記料

改築費

修繕費

雜費

技師報酬

長屋修繕費

門及塀建設費

長屋板塀

水道敷設費

總　額

金五百貳拾四錢

內　訳

金壹萬六千六拾圓七拾六錢九厘

金參百貳拾四錢五拾錢

金五百參拾四錢六拾錢

總　額

基　本　金

五分利付國債證書壹枚

債權國百圓參六枚

五分利付第三國債證書二枚

五分利付第四國債證書壹枚

定期預金

金百貳拾四錢五拾錢

金參百貳拾四錢五拾錢

金壹萬六千百八錢貳拾四錢

金壹千四百五拾錢

金壹萬參千參百七拾八圓四錢

金貳萬六千百八錢貳拾八錢

現　金

當座預金

總常部繰越金

家屋

金九百貳拾壹圓

金壹千百貳拾錢

金壹萬參千九百貳八錢

金貳千百參拾錢

右之通ニ候也

明治四十二年一月

理事　會頭　男爵　松平正直

同　副會頭　農學博士　酒匂常明

同　同　紫藤章

同　同　本多岩次郎

同　同　桑田熊蔵

同　同　吉池慶正

同　法學博士　高橋新吉

同　同　加賀山辰四郎

監事

會報雜觀

▲蠶業組合の大計畫　信濃市では早々多額の補助金を交付して蠶業の發達を企図して居るが、ドーも諸々として進まんといふので今度愛媛蠶業局榮組合に於ては的へ桑園を交付を受けて全市を五區に設置し各区ごとに指導者を加へ現在桑園五六百石より一躍二千石に達せしむる計畫であるとのことだ出る事業の多い昨今此種の計畫は嘸ら賛成。

▲好望なり本邦の玉絲　我邦の玉絲は伊國のものに比較して品位が遙かに優れ海の風料として最も適當で殆ども欧米の機業者は之が使用になれたならば從き將來に於て一定の用途を生ずるに相違ないソーすると玉絲も一角有望のものとなるだらうとは農商務省蠶業局の調査だ今から玉絲製造の方法を研究して之が發達を計るのも面白からう。

▲桑苗の共同購入　神奈川縣農會では風に桑園の改良に著手し之が一方法として桑苗の共同購入をするさうな機運醸成會愛甲郡の郡部の蠶業者から種々其勧誘に應じて讃賞を申込むので農取部西伯郡加茂村の某より大量購入するといふことだ結局の計畫は飼ふも飼合がない、などと悲嘆を嘆ほした為さへ引き続く乱獲者のある今日誠から福音を耳にするのは海に真に心持ちだ。

▲蠶兒の調査檢査　豊島郡志那郡野村は目黒縣下に併合すべく蠶種の三分の二を製造する位盛んな土地であるけれど、で蠶兒飼育員は蠶種檢査者として蠶兒の發檢を行ひ蠶業者を奔走し出張ひするので慨じ蠶兒を發檢し製種の適不適を決するさうな、ヤッて其野郎蠶種製造組合組合員と四十二年度の參事陸と

▲蠶業組合の大計畫　信濃市では早々多額の補助金を交付して蠶業の發達を企図して居るが、ドーも諸々として進まんといふので今度愛媛蠶業局榮組合に於ては的へ桑園を交付を受けて全市を五區に設置し各区ごとに指導者を加へ現在桑園五六百石より一躍二千石に達せしむる計畫であるとのことだ出る事業の多い昨今此種の計畫は嘸ら賛成。

▲好望なり本邦の玉絲　我邦の玉絲は伊國のものに比較して品位が遙かに優れ海の風料として最も適當で殆ども欧米の機業者は之が使用になれたならば從き將來に於て一定の用途を生ずるに相違ないソーすると玉絲も一角有望のものとなるだらうとは農商務省蠶業局の調査だ今から玉絲製造の方法を研究して之が發達を計るのも面白からう。

▲桑苗の共同購入　神奈川縣農會では風に桑園の改良に著手し之が一方法として桑苗の共同購入をするさうな機運醸成會愛甲郡の郡部の蠶業者から種々其勧誘に應じて讃賞を申込むので農取部西伯郡加茂村の某より大量購入するといふことだ結局の計畫は飼ふも飼合がない、などと悲嘆を嘆ほした為さへ引き続く乱獲者のある今日誠から福音を耳にするのは海に真に心持ちだ。

▲蠶兒の調査檢査　豊島郡志那郡野村は目黒縣下に併合すべく蠶種の三分の二を製造する位盛んな土地であるけれど、で蠶兒飼育員は蠶種檢査者として蠶兒の發檢を行ひ蠶業者を奔走し出張ひするので慨じ蠶兒を發檢し製種の適不適を決するさうな、ヤッて其野郎蠶種製造組合組合員と四十二年度の參事陸と

して製種家の蠶兒を發檢することにしたのでエ藤組長は此度野村へ出張して發檢の時期、製種を見合すべき病患合や其他の實驗方法を調査したさだ蠶期に蠶蛾は蠶兒に接觸して蝕の目蠶の目蠶の目の微粒子延伸を防つたら少しは病患の退治も出來やうかと思の點的數字早く止めたいれ。

▲立枯桑の利用　山形縣では早春の候桑苗の刈桑に枝の立枯するものが多いので蠶業者の間にはイヤの間にか大夜が打ち寄せて困つたもの多の歌つ蠶が高いと如之ば少の話の方が同縣の産業技手は立枯桑を被に燃料とするの悟しいと種々工風した上之を秋季に刈り去つて其皮で紙を製造したらば其からと考へ其試驗をしたさうだ、ところが案外好結果を得たとのこと聴なら切身の紙製造法の發明上之の出來編も当早立ては常人となるとかや立枯桑も晩養蠶業編中の問題として歓迎せらるゝに至るだらう。

▲鐵砲絲に伐　之も山形縣よりの消息だが同縣昨年の蠶會では蔵砲絲征伐案として例ふべきものを決議したげなで夫れ聞いてゐる蔵砲の製造者に一致に付料金的に廿錢づゝの為供給したげなで夫れ聞いてゐる蔵砲の製造者に一致に付一圓五十錢の報酬を與へる云々……之では如何な難强の蔵砲高ではない蔵砲絲で之も降參すれげなるまいで。

▲進氷社の座繰絲は金底掃ひか　上州群馬郡の一にる吸氷社の座繰は昨四十一年度の產額産年の夫れとして著しく増加し総九千貫に上つたさうな賀年來實行きが其ゝつて最年横濱市には其在荷物と並に捲び倉にヘケになつた繭物百餘個殘存するに過ぎないとき我同事業の成績は實に小成味の其いやうに謂ちやないか。

▲工女五千人　識訪の春機製絲は去月廿日より廿五日迄の間に機は始業され其日日廿一日の二日間に郡外及他國より問答へ入つた工女群りても五千名に達したさうな此工女衆が所謂同國家の子城で中の戦爭場雲に協くべき為ちやと思ふと四方八方から入り來る實況を目撃した福者は一種の感に打れざる為なかつた。

▲特價販賣の微可　登時我自版に一異彩を放ち我蠶業界空前の大事業として唱來さうな土地であるけれど、で蠶兒大飼者は為來を好成績を收ゝ為たので急四月十日を限りとして給餌の特賣を敢行と既十五圓でなければ之が費用に應ずゐとのことだ。

年報に就て

本誌は年一回發行して會員諸君に御贈ちをする年報の代りであります間より紙數も多くし記事も豐富にして會員諸君に御贈答を仰ぎたいのですが事情がこれを許させん事情とは云ふのは即ち經費であります。本會現在の力では一度御入會になつた方に對し御一生の間毎年一冊づゝ無代で送上る年報を十分立派なものにすることが出來ないのであります、併し之れでは其方に遺憾であるから會員諸君の爲にもなり斯業の爲にも一層の活動をしたいといふので新意發展の策を講じて居ります。希ば諸君其意を諒して本會の爲に特に一層の勞を添へられたい序ながら一言して置きますが經費の都合上四十二年度に發行すべき年報を例に依て會報の臨時印刷とした譯であります、が一體本會が毎月一回發行して居る會報はコンなスペラのものではありません毎號四六二倍の大冊誌であつて日に月に新なる學理上の問題や實際上の問題を解決すべく學者實業家の意見を蒐めて掲載し其他斯業上參考なる記事を悉く網羅しまするから其に斯界一流の羅針盤たる一大雜誌であります今や本誌は全世界に讀者を有し駸々として毎號天覽の榮を擔ふて居りますが、如此きは恐らくあゆる實業雜誌中本誌を指て他にありますまい斯業を愛し同家を思はるゝの士はどうぞ進んで本誌の愛讀者となられたいのであります

大日本蠶絲會報廣告料

特等		並等	
回數	一頁	半頁	四分ノ一頁
一回乃至六回	貳拾圓	拾貳圓	七圓
二回ニ付	拾圓	六圓	拾五圓
七回以上（二回ニ付）	拾七圓	拾圓	拾貳圓
		七圓	八圓
		四圓	五圓

●會員は右料金の二割引とす●四分の一頁未滿は謝絶す●前金にあらざれは掲載せず●一頁は一行二十七字詰七十二行とす

●本報定價　一冊　金拾五錢　一ヶ年分前金壹圓七拾錢

明治四十二年三月二十一日印刷發行

禁轉載

編輯兼發行人　東京市神田區錦町三丁目十八番地　小池松市

印刷人　東京市神田區錦町三丁目十八番地　鳥越太郎

印刷所　東京市神田區錦町三丁目十八番地　三秀舍活版所

東京市神田區錦町三丁目十八番地

發行所　大日本蠶絲會

（電話本局一四七三番）